

輸入検疫で発見された主な病害虫

平成2年に輸入された植物から発見された重要病害虫は別表のとおりである。

このなかで、旅行者が持ち込んだ青果実類などからわが国が輸入禁止対象害虫に指定して特に侵入を警戒しているチチュウカイミバエ、ミカン

コミバエ、ウリミバエ、アリモドキゾウムシなどが発見されている。

なお、オクラとタマネギから発見されたアリモドキゾウムシとコロラドハムシのように本来の寄主植物でないものから発見される事例が見られた。

	発見病害虫	寄生植物発見回数	輸出国別発見回数
輸入禁止品対象害虫	<i>Ceratitis capitata</i> チチュウカイミバエ	オレンジ②、トウガラシ②、パイン①、カキ①	ブラジル③、ガーナ②、チュニジア①
	<i>Dacus dorsalis</i> ミカンコミバエ	マンゴウ(38)、パイン①(33)、パイン②(22)、レイン①(16)、他27種(95)	台湾⑦(6)、タイ⑦(2)、フィリピン③、インドネシア③、他5カ国②、不明②
	<i>Dacus cucurbitae</i> ウリミバエ	ニガウリ③、ササゲ③、ヘチマ①	タイ⑦、台湾①、フィリピン①、マリアナ①、オーストラリア①
	<i>Dacus tryoni</i> ワインランドミバエ	オレンジ①	フィリピン③、台湾③、タイ②、インドネシア①、マレーシア①
	<i>Cylas formicarius</i> アリモドキゾウムシ	サツマイモ③、オクラ①	チリ①
	<i>Cydia podonella</i> コドリンガ	クルミ①	アメリカ①
	<i>Leptinotarsa decemlineata</i> コロラドハムシ	タマネギ①	
特定重要病害虫	<i>Colletotrichum capsici</i>	トウガラシ③、コダチトウガラシ②	タイ③、台湾②、インドネシア②、マレーシア②、ベトナム①
	<i>Anastrepha fraterculus</i> ミナミアメリカミバエ	パイン②、コーヒーク①、リンゴ①	ブラジル④
	<i>Otiorynchus sulcatus</i> キンケクチブツウムシ	アジサイ①、ロードアンダーソン①、イチイ属植物の一種①	アメリカ①、イギリス①、オランダ①
	<i>Pantomorus cervinus</i> フラワーバラゾウムシ	リュウコスベルマム③、リュウカアンドロン②、他7種③	ニュージーランド⑦、ハワイ⑤、アメリカ①、ブラジル①
	<i>Dendroctonus ponderosae</i> アメリカマツノクイムシ	ホワイトパイン②	アメリカ②
	<i>Scolytus multistriatus</i> セスジクイムシ	ニレ①	アメリカ①
	<i>Zabrotes subfasciatus</i> ブラジルマメゾウムシ	ベニバナインゲン⑤、他5種③	チャンマー③、ブラジル①、タイ①

海外のニュース

タバココナジラミによるトマト果実の被害

1987年米国フロリダ州で、成熟にむらのあるトマトの異常果が見つかった。この被害は、その後も州内各地で報告され、irregular ripeningと呼ばれた。症状は、果実の成熟が縦方向に沿って阻害され不完全であること、トマトの品種によっては果実内部組織の白化を伴うことなどがあげられる。

このような症状の発生が、タバココナジラミの多発時期と一致していたことから、フロリダ大学のD.J.Schusterら(1990)は、この被害が本虫によるものなのかどうかを確かめるため、野外のケージ内に生育中のトマトにタバココナジラミを放飼する実験を行い、次のような結果を得た。

(1) 本種の放飼によりirregular ripening症状のトマト果実が得られた。(2) 果実に外部症状があらわれるまえに本虫を除去した場合も、症状は軽い被害果が発生した。(3) 内部組織の白化は、本種を放飼していないケージの果実にも見られた

が、放飼したものはより白化が著しかった。

Schusterらの報告によると、この被害は本虫が直接果実を加害したことによるものが、それとも葉に寄生することにより間接的に果実に被害を及ぼしたのかは明らかでなく、被害のメカニズムもまだ解明されてはいない。

タバココナジラミは1900年にはすでにフロリダでその存在が確認されていたが、1986年にポインセチアへの加害が確認されるまでは重要な害虫とは考えられていなかった。

(HortScience, Vol.25(12), Dec.1990)

発行所 横浜植物防疫所
〒231 横浜市中区北仲通6-64 ☎(045)211-2299
発行人 松本安生
編集責任者 釘持秀禔
印刷所 内村印刷株式会社